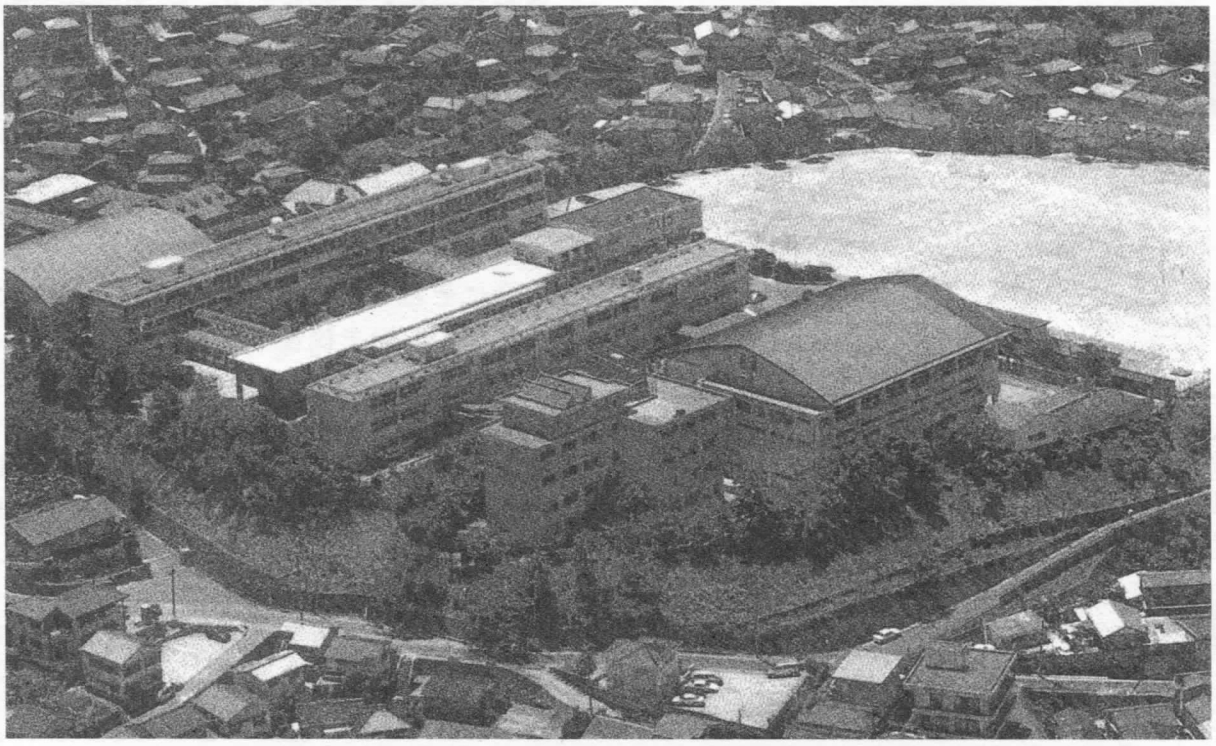
２０００年７月１５日発行

Ishi Datami

いしだたみ



長崎県立長崎南高等学校

２０００年夏
ＶＯＬ．１６
長崎南高関西同窓会

NAGASAKI

新歳時記

インデックス

NAGASAKI新歳時記		2
懐かしい手紙	川下先生	3
南高便り	碇校長	4
リレーエッセイ	井上芳文	5
リレーエッセイ	柴田りつ子	6
リレーエッセイ	山下直人	6
会長挨拶	松本藤一	7
クローズアップ仲間	松永文子	8．9
インフォメーション		10

われらが母校

今春、長崎南高は４０回目の新入生を迎えました。これまでに２万人を越える卒業生たちが、長崎はもとより全国各地で活躍しています。私たちの関西同窓会も今年で結成１０年、１回生から３７回生まで世代によって異なりますが、なんといっても創立当時の思い出は格別です。小島の丘の上に建つ校舎からは長崎の港が一望できました。長崎の港からはるか五島へと続く海と、稲佐山の向こうに落ちる夕陽の美しさはいまも脳裏に鮮やかです。当時、学校の周囲は竹藪と畑だらけで、田上のバス停から学校まで畑の中に未舗装の道が１本あるだけでした。町を歩けば見慣れぬ制服に修学生と間違えられ、「どこから来なったと」とよく尋ねられたものです。

校庭の石拾い、草むしり、グラウンド整備など、授業の合間に生徒たちもよく働きました。当初は確か校舎の隣に先生方のための官舎があり、文化祭や体育祭などで立ち寄っては夕食をごちそうになった記憶があります。

授業中よそ見していて火事の煙を見つけたり、秋のお宮日には風に乗って聞こえるシャギリの音にそわそわしたりと、劣等生の思い出は尽きません。いま校舎の周辺にはぎっしりと住宅が建ち並び、交通の便も格段に良くなって、昔日の面影はありません。長崎の町のたたずまいもずいぶん変わりましたが、稲佐山、岩屋山、唐八景、彦山、愛宕山など、崎陽が丘の学窓から眺めた山々の姿はいまも同じです。

２回生　中野章子

懐かしいてがみ

川下満之先生

昭和４８年、長崎南高の門をくぐった私は３０歳の若者でした。今は亡き井上彰校長先生と優れた先生方、そして生徒諸君のなかに入り、身震いしたことを今更のように思い出します。

南高を去ったのが平成元年３月。その間、担当したのが１３，１４，１７，２０，２３，２６回生でした。１８回生までは１３クラス、１９回生から１１クラスと大所帯で、回の違う生徒には南の先生（？）という顔をされたものでした。

南には個性的な生徒が多く、１６年いるといろいろのことに出会いました。知恵と知恵のぶつかり合い（時には悪知恵同士）で、私も多くのことを学びました。東京在住の卒業生からも、東京出張の折りには連絡せよと電話があったり、今も便りのやり取りがあったりして嬉しく思っています。一緒に飲めばその時にタイムスリップして年齢を忘れてしまうけどまさに教師冥利というものです。私も皆さんと同じように「南」で育てられたという思い出いっぱいです。

たくさんの思い出がありますが、先ずは雲仙合宿。長崎県以外ではまさに驚くべき事業のようでしたが、苦しさよりも楽しさのほうが多かったのではないでしょうか。そして、多才な集合体はその能力を遺憾なく発揮してくれました。押入で寝るなんてこれはあまり冴えないが、見つかることは計算に入っているものが多かったように思う。窓の外で下の階と手紙の交換に明け暮れた者。とんでもない噂を飛ばした者。コップに水を入れて絶対音階の楽器作りをやった極めて程度の高い者等々。また恐ろしげもなく震度４の地震の中で勉強したのが２３回生。そして、体育祭とそれに続く後夜祭も南高独自のものがあったので、それぞれに思い出があるのではないでしょうか。いろんな場面で生徒たちの「気魄と情熱」があったと思います。６月の高総体の活躍もその表れです。他にもありますが割愛。

関西支部が創設１０周年ということでおめでとうございます。長崎南出身の皆さん方がさまざまな分野で活躍されていることを大変嬉しく思います。同じ学校で学んだ者同士が、原点を同じくする者が、「懐かしさと心の安らぎと生きる力」を生み出す場としてこの同窓会がますます充実発展されんことを祈念いたします

南高だより(同窓会の皆様へ)

長崎県立長崎南高等学校長　碇　邁佐嘉

1　ごあいさつ

同窓生の皆様には、母校への熱い思いと温かい御支援をいただいていることに対し、心から感謝申し上げます。

おかげ様で南高は、昭和３６年に開校して以来、今年で４０周年目を迎え、卒業生は実に２万人を超えました。この間、校訓「理想は高く、気魄と情熱に燃えよ」校是「学習と部活動の両立」を掲げ、南高は輝かしい実績と素晴らしい伝統を築いてまいりました。

南高生はあいさつがよく、服装・頭髪等がきちんとしている言われています。また、南高生は何事にも燃え、特に、体育祭では見ている人に言い知れぬ感動を与えてくれます。勿論、進学の結果は素晴らしく、部活動も盛んであり、学校全体が活気に満ちています。とにかく、都会の一部の学校に見られるような茶髪や白けムードは全くなく、昔ながらの純朴な高校生らしい姿を持ち続けています。これも、人情味豊かで美しい長崎の風土と、南高独自の校風が生徒たちを育んできたからだと思われます。

来年度は、創立４０周年記念式典を行いますが、最近の厳しい経済情勢を踏まえ、地味な形にとどめる予定です。ただ、南高の歩みを記録し、来る５０周年を盛大に行う布石は打っておく所存です。同窓生の皆様には、４０周年記念誌の執筆等の御協力をいただければ幸甚です。今後とも、母校南高を温かく見守っていただくようお祈りします。

2　進路状況（平成1`2年度入試）

東京大学３名をはじめとして国公立大学１９０余名、私立大学１６０名、短期大学３０名など、今年度も多くの生徒が自分の希望する進路への合格を果たした。(数字はいずれも現役生（３７回生)

昨今の厳しい社会情勢を受けて、単に大学に合格することのみを目標とするのではなく、「大学で何を学ぶか」「将来の夢は何か」を１・２年次から問いかけながら「逞しく実力を備えた、社会に貢献できる青年」の育成を目指している。

2　部活動

文化部：

全国放送コンテスト全国大会４位（放送部)、
全国高校文化祭参加（美術部）

体育部：

（団体）北九州大会総合優勝（陸上部女子）
県高校総体準優勝（陸上部女子）
県高校総体３位　剣道男子
サッカー
ラグビー
フェンシング）

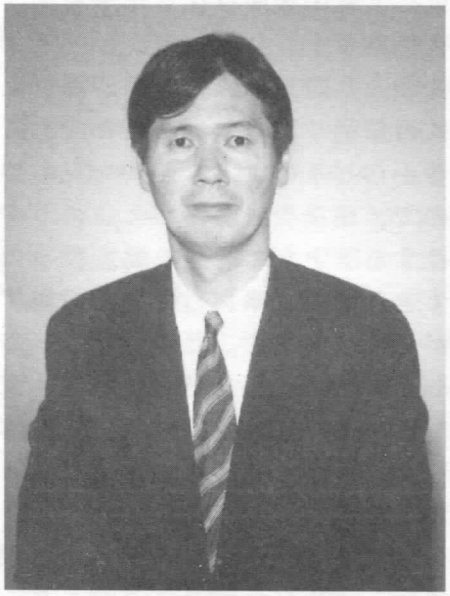
（個人）県高校総体優勝　陸上部男子
１００M
２００M
陸上部女子
４００Mリレー
１００M
４００M
８００M
走り幅跳び

９月２３日（土）の第１０回総会は
碇現校長に出席をお願いしておりましたが、
急遽予定が入り、菅藤教頭が出席して
くださることになりました。

リレーエッセイ part1

「同窓会のすすめ」

6回生　井上芳文



「井上さ～ん、今度エッセイ書いてね。１２００字。」池谷秀子先輩に頼まれたらイヤと言えない。蛇に睨まれた蛙。女性に弱いのは南高の頃からか。３年間男子クラス。今思えばヒドイ話。あれで女性に極端に甘い・弱い私が出来てしまった。

もともと「皆でつるんで何かする」ことが苦手な天の邪鬼、その上立食パーティー（長崎南関西同窓会は着席）も出来れば遠慮したいくちで、同窓会・同期会。ＸＸ会の類は一切パス。逃げ回っていたのに。

ひょんなことから２年前の盆に長崎で、６回生だけの同窓会に参加したのが始まり。その場で関西同窓会のことを聞き、乗せられて、一昨年・昨年と出席。今では、「次は欠席したい。」なんてとても言えない。あまり大きな声では言えないが、会費さえまともに払っていなかった僕だが、同窓会にどっぷり浸かってしまった。

こんな風に書くと、イヤイヤみたいだが、結構面白く思っている。それは単に自分が歳をとったからか。でも他にも。まず、偉そうにしている人がいない、わりと人が少なくこじんまりしている、昔からの知り合いだけでしゃべろうとしない、等々。会のムードが気にいっているのかも。

今では月例句会にも出ている。３回生の松永典子（ペンネーム、本名は松永文子）さんが先生（僕らはお師匠と呼んでいる）になって僕らの５・７・５を並べただけのヘタクソ俳句を親切に、おだてながら指導して下さる、タダで。また作ったヤツをメールで送ると添削（高校時代やりましたネ）までして下さる。

おかげで句会が近づくと、花の名前も全然知らないのに、脳味噌から数少ない言葉を無理やりひねり出して、５・７・５にする。先生には「迷惑かけの介」で申し訳ないが、ヘタはヘタなりに楽しめて、その上ちょっと文化的な香りもするので、それなりに自己満足している。松永先輩は立派な本も出して、ほんとはとても有名な人なのに、普通のやさしいおばちゃん。宿題をやって来なくてもＯＫ。大ファンになりそう。

南高校句会は月１回、吟行に出たり、同窓会事務所に自分の句を持ち寄ったりして、やってます。興味のある方は池谷さんに連絡して下さい。とても喜んでくれます。

やはり自分の句を披露しないといけないんでしょうネ。と言いながら、内心自慢したい気持ちもちょっとあったりして。評判の良かった句で、本人も気に入ってる句です。

『春の空恥を曝して五十路行く』

『紫陽花も昨夜の雨が恋しくて・・・』

関西同窓会は今年で１０回目だそうです。幹事の人たちが色々アイデアを出し合って、みんなが楽しめる同窓会になるよう考えています。今まで敬遠していたあなた、仕事や結婚の有無、ハゲ・デブ、そんなの関係ない。もし都合がつけば一度参加して見て下さい。

また俳句も一緒にやりませんか。

りれーエッセイpart2

「愛犬家入門」

１６回生　柴田りつ子(旧姓手塚)

私事ですが、３年ほど前から犬を飼っています。ちょうど祖母を亡くした年の秋、ふと思い立ってペットショップに立ち寄り、出会ったのがこの犬です（写真参照)。４ヶ月もショップの檻の中に閉じ込められていたせいか、走ろうとすると足がへなへなと崩れてしまう情けない奴でした。店員が「このまま売れなければ種犬に回す。」と言うので、夫とふたり一晩悩んだ末、翌朝引き取りに行ったのです。

一般に、犬というのは人に懐く忠義者と思われているようですが、うちの駄犬は飼い主が呼んでもめったに姿を現さない根性を持つ一方、菓子袋を開けるパリパリという音にはコンマ１秒の間も置かず待機します。牛なみに惰眠を貪り、次いでは蛙のような鼾を発し、気に沿わないと蜘蛛のごとく地面を這いつくばる。「色気に走るよりは食い気の方がマシ」と飼い主が油断したせいか、見事な巨体に成長してしまいました。

目下の我が家の関心事といえば、「犬連れ海外旅行」（北海道・九州沖縄含む)。一度ゲージに入れて飛行機に乗せてみようと思いつつ、飛行場の受付カウンターで余所の犬が鳴き喚くのを聞くと弱腰になります。「○○さんとこ、わんちゃんをショップに預けて南の島にリゾートに行くらしいよ」と聞くと、心底羨ましくなるのですが、夫は「うちの子を預けて行けない」と断固拒否の姿勢です。

そんなこんなで、気がつくと我が家のリゾートは、「わんちゃんも泊まれる宿」、「わんちゃん連れで行けるアウトドア」、外食は高速のサービスエリアの公園のベンチという有り様。ああ、リッチなリゾートがしてみたい。

先輩諸氏、愛犬歴ン十年という方、この未熟な愛犬家にどうぞ心温かいアドバイスを！

りれーエッセイpart3

「私の近況」

２７回生　山下直人

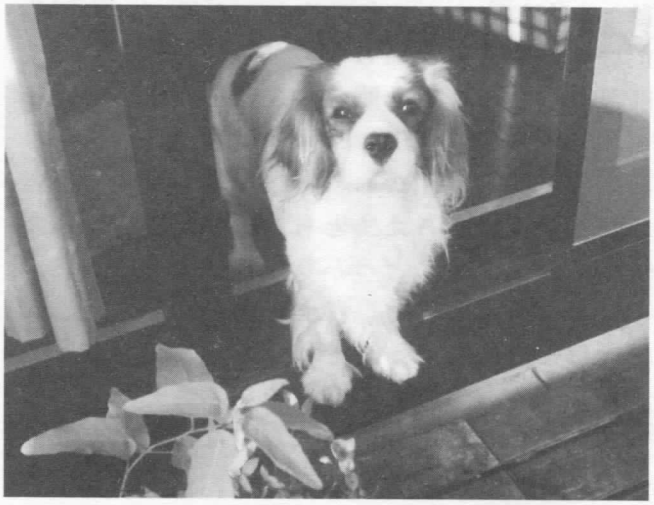
初めまして。２７回生の山下直人です。「私の近況」という題名で作文せよという指令を、お世話になっている中島大先輩様より受けたので、簡単に、私の大阪在住６年半を振り返ってみたいと思います。

私の就職した時期は、バブルが崩れた後で、さすがに希望通りにはいきませんでした。それでも、昔からビルのような建物を見るのが好きだったので、建築会社をさがし、ようやく松村組に入社することができました。仕事の内容といいますと、建築工事に付随する設備工事の現場管理が主なものです。仕事は忙しい時はとことん忙しく、土・日出勤は当たり前、夜中まで働く事も多々ありますが、暇なときは本当にやる事もなく、かなり落差が激しいです。
最近はかなり落ち着いています。

「私の近況」というより、６年半を振り返って思う事は、大阪にも慣れ、友達もたくさんでき、本当に良かったと思っています。大阪に初めて来た時は、知人・友人は全くおらず、かなり辛いもんがありましたが、もう長崎には戻りたくないくらい大阪が好きになってます。

大阪在住の２７回生付近の方が、もしいらっしゃるようでしたら、会いたいものですね。おられるようでしたら、いつでも声を掛けて下さい。

最後に、あまり国語力がなく、粗末な文章で申し訳ありません。これからも長崎南高校同窓会の発展を心から祈っております。



第10回総会にむけて

関西同窓会会長　松本藤一（2回生）

長崎南高関西同窓会の総会は今回で１０回目を数えます。長崎南高が創立３０周年の記念事業を行なった年にそれまで少人数で集まっていた関西のメンバー皆で集まる会を始めたのが最初でした。その切っ掛けは岩永正人会長や角町正勝副会長から新幹線の新神戸駅のニューオリエンタルホテルに呼び出されて夜中の１時まで「関西でも同窓会を立ち上げろ」と勧められた後、タクシーで大阪の寝屋川まで帰ったことが始まりでした。その後多くの人が集まり、そして多くの交流が生まれました。役員会やゴルフコンペ、そして最近は句会の集会など、私の事務所を中継所にしての活発な集いがあります。よく頻繁に顔を合わせるものだと感心しております。しかし、度々集まるメンバーとの交流が活発であるのに比較すると年に１回前後しか顔を会わせない人との交流が進まないことが悩みといえば悩みです。もっと多くの人に総会に参加して欲しいと思うのですがな中々人数が揃いません。人に会うことに意味を見つけている人もいるし、そうでない人もいることでしょう。人に会う機会など少ない方が良いと考える人もいるかもしれません。長崎南高時代の懐かしさの度合いが少ないからそれを凌駕する新しい共通体験を持たなければ親しさなど生まれはしないという意見もありうるからです。最近、私も先日まで会っていた同級生でもう会えなくなる経験を何度もしました。その都度、胸をよぎるおもいは会える時に会っておけばよかったというものです。生きている間に出会える人の数は極めて限られたものであることを痛感します。もっと多くの人が同窓会に目を向けてくれることを期待します。

元気の出る話をひとつ。我々の祖先は１万５千年前の縄文時代から既に縄文土器という世界的に最も古い土器を製作していたようです。従来は世界最古の土器は紀元前３千年前のミソポタミアのものと言われていたことからして驚くほどの古さです。その土器が最近南太平洋の島々や南米ペルーやコロンビアでまで大量に発見されているということです。しかもこれらの土器は成分分析の結果、日本国内の土で作られた５、６千年前のものということです。ペルーのミイラから発見された鉤虫がアジア原産であり、鉤虫１世代が１年余りであり、摂氏４度より低い温度では死滅することからして人体を介して運ばれた鉤虫は太平洋を渡った人と一緒であったことが分かります。鉤虫は人間の寄生虫です。鉤虫のミイラと縄文土器が一緒に発見されたことから、南米の縄文土器もベーリング海峡を通っての陸伝いでなく、太平洋を渡ってのものであることが分かります。海流にのるだけで１年以内に南米まで辿り着けますが、陸伝いでは３、４年以上かかるということです。発見された縄文土器の多さからしてとても偶然に運ばれたものではなく多数回の交流の結果であったことがわかるそうです。地球の裏側までの航海はゆうに２万キロあります。太平洋を渡航する航海術と星座を観測する知識のもと、海流に流されながら遙か大海原の彼方を目指して旅立ったのでしょう。出発した港に帰ってくる可能性は高いとは思われません。気象情報や海図もないからっです。何を求めて航海に出ていたのでしょうか。冒険という言葉すら物足りない程の気の遠くなる行動です。危険に敢然と挑む情熱に感嘆せざるをえません。目的地に辿り着くため必死で危険と闘ったと思います。危険を見つめ危険を克服するために頑張ったことを世界に散らばる多くの縄文土器が証明しています。

翻って考えると我々の時代は危険に挑むどころか危険を直視することから避けようとしています。「命さえあれば、命だけが大切」という実体のない不可解な感情で世の中が流されているかのようです。しかし、歴史の中で生きてきた我々の祖先は「命さえあれば、命だけが大切」という無目的な生き方はしなかったことは確かです。

縄文土器と日本の歴史は私たちに「勇気を持て、元気を出せ、前に進め」と声をかけている気がしてなりません。如何でしょう。

クローズアップ

仲間　№5

松永文子　3回生

餃子の具ぱんぱんに詰め松の雨
灯を点すように手を挙げ袋掛
学校の横向き蛇口雲の峰
アイロンを立ててさましぬ梅雨の月
蛍光灯点くまでの音夜の秋
　などの清新可憐なスケッチの
才が光る。
　一体に機知と叙情との寄り添う
趣がいいようで、
現像の液にゆらめき梅花村
飴玉に気泡ひと粒みどりの日
梨の花嫁が足りぬと広報課
一日中人の世を見て痩せ金魚
　とりわけ気に入ったのは、
幕切れの内側の雪外の雪

１９９９年１２月２６日
毎日新聞　丸谷才一評

先輩が俳句をやっているらしいことはうすうす気付いていた。少し前の幹事会に入選した句がプリントしてある「おーいお茶」という缶入りのお茶を持って来てくれたことがあったが、俳句など辛気臭いとしか思わぬ、風流を解せぬ私であったので、ありがとう、ゴクゴクゴクで終わらせてしまった。
昨年の末のこと、先輩からとてもきれいな本が送られてきた。
「木の言葉から」松永典子句集
富士見書房
松永典子とは文子さんの筆名である。
読んでびっくりしてしまった。
さばけた女性という彼女のイメージの奥にこんな豊かで、ビビットな世界があったとは！

素潜りに似て青梅雨の森をゆく

若いころあこがれていたコレットやサガンを久しぶりに思い出した。

別れてきて日傘の熱を折りたたむ

先輩も私と同じ「元気なおばさん街道」をまっしぐらに進んでいると思っていたのに、これってあり？

今年になって２月の末、去年もやったバードウオッチングをまたやりたいという話が出てその時ひょいと閃いた。

「探鳥句会」はどうかな。

とても寒い、おまけに雨まで時々降ってくるような土曜日、総勢１０名で梅が咲きはじめた万博公園へとでかけた。
所謂、吟行である。
バードウオッチングのほうは、運悪くリーダ金丸さんの都合がつかず欠席で、うろうろしてばかりだったが、俳句はがんばりました。
全員初心者だったのに、それぞれ俳名まで付ける、張り切り様。
その時の先輩の一言、「さあ大人のオシャレな遊びの世界へどうぞ」、すっかりその気になってしまった私たちは、同窓会のサークルの一つとして、「探鳥句会」を立ち上げてしまったのだった。

私たちはとてもラッキーだった。
指導してくれる松永さんは大変明るく熱心。イキイキ、グングン初心者を俳句の世界へと引きずり込んでしまう。
私などしばらくは俳句モードが入りっぱなしで、歩くたびに下手な句が口から飛び出てくる始末。
そして、一番大切なことは彼女が２０数年の研鑽の賜であるゆるぎない実力を惜しみなく注いでくれること。

こんなすごい人の手ほどきをうけられて私たちはほんとにラッキーだった。(先輩、わかっているのだけど、のほほんと楽しんでばかりでごめんなさい。)
彼女は、今、俳句の世界では、旬の人なのである。

昭和２２年生まれだから５０代前半の著者だ。題名からしてしゃれている。

（中略）

冒頭句は、
　裏窓に補正下着と風鈴と
で、軽くはあるが、「補正下着」を俳句に導入しているのは目新しい。女性ならではの詩語採用として評価できる。
　別れてきて日傘の熱を折りたたむ
　家々が男吐き出す深雪晴
　素潜りに似て青梅雨の森をゆく
　葉牡丹の渦の奥まであられ粒

僕の丸印の句を挙げていくと切りがない。
油断のならぬ著者だと思う。
新鮮な切り口に驚きもした。跋文に坪内稔典が「とても好調だ、典子は」と讃辞を送っている。
僕も同感だ。新星の誕生だ。

俳壇年間２０００　５月号
伊丹三樹彦評

略歴
山口県生まれ
昭和５４年俳誌「沖」入門
昭和６３年「沖」同人.
平成６年作句中断
平成１０年俳誌「船団」入会
この間、転勤族の夫と子供２人、、九州・関東・中部。関西とほぼ３年に１度の転居。
今は、白鳥伝説の地に落ち着く。
平成１１年１２月句集「木の言葉から」上梓。
全国紙４紙、俳句総合誌に採り上げられる。

さてその「探鳥句会」は現在１０名。ちなみにその俳名を披露すると、
師匠・法藤・恵女・サブリナ・海峰・美雀
西港・山佐・リアップ・ベアトリス

よちよちと歩き始めたばかりの集まりですが、松永先輩のキャラクターのおかげで、とても楽しく充実した会になりそうな予感がします。
今からでも十分間に合いますので、たくさんの会員さんに入ってもらいたいと思っています。

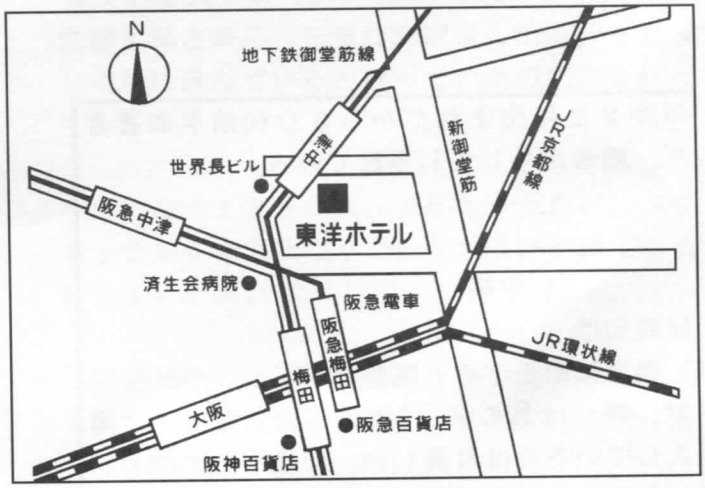
文責　５回生　池谷　秀子

インフォメーション

第10回総会

日時・９月23日(土)秋分の日
午後2時から5時まで

場所・東洋ホテル
北区豊崎3－16－19
℡　06－6372－8181



招待恩師　別紙に詳しく記載しています
一瀬　栄次　先生
原　宮之　先生
吉川　雄幸　先生
平鍋　公二　先生
川下　満之　先生
水田美知子　先生
曽藤邦輔　現教頭

10回目の記念すべき総会ですので、これまで同窓会にご縁がなかった会員さんたちもどうぞ皆さんおさそいあわせのうえ出席ください。

★探鳥句会のお誘い

本文でもお知らせしましたように、松永先輩をリーダーにして、句会をしています。
初心者ばかりが、和気藹々でやっていますので興味があるかたは連絡ください。
次回は7月29日(土)に予定しています。

編集後記

21世紀は「統合」の時代だと言われていますが、統合するには、気の遠くなるような「対話」が必要です。
私も同窓会のお手伝いをすることによってもう一つ突っ込んだ「対話」をいろんな同窓生の皆さんとさせてもらい、それぞれの日常を背負いながら生きている姿を垣間見せてもらいました。そのことでずいぶんエネルギーをもらいました。
どうぞ皆さんも総会に出席して、「対話」してください。

（5回生　池谷秀子）

発行人　長崎南高関西同窓会
会長　松本藤一
編集人　池谷秀子
〒５４１－００４１
大阪市中央区北浜２－３－６
北浜山本ビル３階　松本法律事務所
℡　０６－４７０７－８５１８
Fax　０６－４７０７－００３８